

地域と関わりながらアート活動をしていく

studioくぐま代表 本間 かりん



はじめに

山形県小国町(おぐにまち)は、山形県の西南端にあり新潟県との県境に位置しています。県内でも豪雪地帯として有名で、多い

年は町中心部でも2メートル、山間部では5メートルにまで及ぶこともあります。面積は737・56平方キロメートルで、山形県の総面積の7・9パーセントを占めています。大きく北部、東部、南部、中心部に分かれており、「studioくぐま(以下、くぐまと略する。)」は南部にある小玉川集落を拠点としています。小玉川集落には、平成20年に廃校になった旧小玉川小中学校があります。くぐまは、

2011年に山形市にある東北芸術工科大学の卒業生が、廃校になった旧小玉川小中学校の利活用のためにスタートした事業です。

ショップの企画運営ができる、ワールドワークが行える等)を活かした地域支援、講座・教室の開催、地域の伝統文化・技術(マタギ・つる細工・郷土料理等)を伝承するための情報発信、広報活動、小玉川エリアを訪れる学生たちへの活動紹介や、実習受入補助、町の芸術文化活動への協力等をこれまで行ってきました。

現在の活動概要

活動目的は「①小玉川(小国)で社会教育事業を展開する②小玉川(小国)の文化を継承する③小玉川(小国)の芸術文化を発展させる」の3つです。

2020年度からは地域おこし協力隊の制度を活用しています。

内容としては、「①芸術文化の振興 ②地域の魅力を発信・アピール ③アーティスト活動」を行っています。具体的には、個人が持っているスキル(絵が描ける、ワーク

これまでstudioくぐま
くぐまがスタートして最初の頃は、手探り状態でした。持っているスキルを活かすことだけではなく、集落や町との関係づくりを一緒にやりました。校舎での展覧会や美術教室、音楽イベントへの協力、アーティスト・イン・レジデンスの滞在



旧校舎を利用した文化祭(2014)



町内のショッピングセンターでのワークショップ(2016)



旧校舎教室をアトリエにして、子どもたちに提供(2018)



旧校舎教室でのデッサン教室(2018)

レジデンスの滞在

場所提供など活動は多岐に渡り、多い時では校舎への来場者が1000人を誇るほど拡大しました。

また、活動していく中で、活動範囲が小玉川集落だけではなく小国町全体へと多くなっていきました。そこで現在のよう小国町全体の社会教育事業へと変化しました。

他にも、旧校舎の教室をアトリエにし、子どもたちに提供する「アトリエ広場」や、小中学校でのワークショップの実施、学生に小国町を短期間で味わってもらおう「小国短期留学」の企画・実施や、町内で販売している商品のパッケージデザインを担当することもありました。

現在こぐまが続いているのも、歴代こぐま代表の方が工夫してきたことと小玉川集落の理解のお陰です。



【小国短期留学】旧校舎職員室での参加者開催ワークショップ(2019)

現在の活動内容と新型コロナウイルスの影響

2020年は新型コロナウイルスの影響が大きく、予定していたほとんどのイベントがなくなりました。

それでも、講座やワークショップは定期的に開催し、小国町内のイベントチラシや、ロゴの作成、県内大学生のワークショップ開催協力・援助など、スキルを活かした活動をしてきました。

2021年になってもまだまだ猛威を振るっている新型コロナウイルス。今まで一箇所に集まっていたイベントも分散しなければならなくなり、これまでこぐまが行ってきた活動も工夫をしなければ難しくなりました。今後は県内の情勢を伺いつつ、オンラインでのワークショップや自宅でも楽しめる塗り絵の作成など、おうち時間を活かした活動を行っていく予定です。



町内でのワークショップ(2020)

アートへの理解があつてこそ、地域活性化に結びつく

地方自治体の事業として活動していく上で

必要なことは、地方自治体と活動する者との相互理解と、もっとより良いものとしていくための向上心です。相互理解がなければ事業として成り立つことはできず、向上心がなければただただ存続するだけで、事業のレベルアップにはつながりません。

政治や行政においても、数値化できるものが成果としてわかりやすく、評価されやすい世の中。アートの価値は数値化して判断できるものではないので、なかなか成果として表すことが難しいところです。こぐまがスタートして10年になりますが、存続するためになんとか繋いできたバトンを、工夫しながら受け継いできて今がある状況です。正直、町との相互理解が完璧にできているとは思えないと、私が代表になった時に痛切に感じました。

アートには、人を思いやる心や経験していない事象を推し量る「想像力(imagination)」と、自分の思いを形にできる力、新しいものを作り上げていく「創造力(creativity)」を育む力があります。この二つに共通するのは、自立心です。社会の中で生きていくために必要な、自分の足で立ち、自分の目で判断し、自分でつくりあげていく力をアートは持っているのです。

アートの価値を理解してもらい、町全体がこぐまを必要不可欠な存在だと認識してこそ、本来のあるべき地域活性化に繋がるのではないかと考えています。今後、こぐまがそのような存在となり、小国町をもっとより良い町に活性化していく未来になることを信じています。